

昭和館館報

平成29年度

口 絵			
ごあいさつ	1	(4) SNSの活用	19
フロア構成	2	(5) Wi-Fi提供	19
年間主要行事	3	2 オーラルヒストリーの制作	19
平成29年度事業概要	4	IV 啓発広報等事業	21
I 展示事業	4	1 広報活動	21
1 常設展示	4	(1) 広報資料の作成及び発送	21
(1) 常設展示の概要	4	(2) 広報と掲示及び掲載	21
(2) 展示替え工事	4	(3) 昭和館だよりの発行	21
(3) 展示資料の入れ替え	5	(4) 戦中・戦後の労苦を伝える語り部育成事業	22
2 巡回特別企画展の開催	5	(5) こども霞が関見学デー	22
(1) 第31回巡回特別企画展	6	(6) 第16回昭和館見学作文コンクール	23
「戦中・戦後の暮らし 鹿児島展」		(7) 第10回昭和館中学生・高校生	
(2) 第32回巡回特別企画展	6	ポスターコンクール	23
「戦中・戦後の暮らし 高知展」		2 「昭和の暮らし研究」の刊行	24
3 貸出キット	7	3 展示資料の貸出	25
4 紙芝居定期上演会	8	4 昭和館運営専門委員会の開催	25
5 教員のための博物館体験	8	5 昭和館運営有識者会議の開催	25
6 実物資料の収集と保存	9	6 インターンシップ	26
II 図書映像資料等閲覧事業	10	7 関係施設等連携会議の開催等	26
1 図書文献関係	10	(1) 第12回、第13回会議を開催	26
(1) 運用管理	10	(2) 3館連携「夏休み3館めぐり	
① 閲覧室及び書庫の管理	10	スタンプラリー」実施	26
② レファレンス・サービス		(3) 移動教室「マンガで描いた	
(参考調査業務)	10	抑留・引揚げのガマン」を開催	26
③ 利用ガイドの発行	10	(4) 巡回特別企画展の相互協力	27
④ 展示関連図書の公開と参考図書		V 特別企画展等の開催及び概要	28
リストの配付、読書案内	10	1 「昭和を生き抜いた女性たち	
⑤ ホームページ	11	～大妻コタカと大橋鎮子らが生きた時代～	28
⑥ 蔵書点検	12	2 「希望を追いかけて	
⑦ 利用状況	12	～フロリダ州立大学所蔵写真展～	29
(2) データ管理	13	3 写真展「カラー写真が伝える復興・発展のきざし	
① 収蔵図書のデータ管理	13	一占領下の日本一」	31
② 目次データ入力	13	4 写真展「女学生たちの青春	
(3) 保存管理	13	～戦前から戦中、そして戦後へ～	32
(4) 業務研修	13	5 資料公開コーナー	32
2 映像・音響関係	13	参考	
3 ニュースシアター	14	1 入場者状況の推移(平成11年度～29年度)	33
4 収蔵資料	14	2 平成29年度利用者実績	34
(1) 図書資料の収蔵状況	14	3 常設展示室入場者数	34
(2) 映像・音響資料の収蔵状況	15	4 来館団体御芳名	35
III 関連情報提供事業	17	5 第16回昭和館見学作文コンクール・	
1 運用管理	17	厚生労働大臣賞受賞作品	36
(1) システム運用管理	17	6 第10回昭和館中学生・高校生ポスター	
(2) データベース運用管理	18	コンクール入賞作品	37
(3) ホームページ運用管理	18	7 施設概要	38
		8 平成29年度寄贈者御芳名	40

口 絵
外観写真





7階 常設展示室「銃後の備えと空襲」 防空壕体験コーナー



6階 常設展示室「子どもたちの戦後」 青空教室（制作：安部朱美）



6階 常設展示室「体験ひろば」 着てみよう！



5階 映像・音響室



4階 図書室



1階 昭和館懐かしのニュースシアター



2階 ひろば
紙芝居定期上演会



特別企画展

昭和を生き抜いた女性たち ～大妻コタカと大橋鎮子らが生きた時代～
(平成29年7月22日～9月10日)



特別企画展

希望を追いかけて～フロリダ州立大学所蔵写真展～
(平成30年3月10日～5月6日)



巡回特別企画展「戦中・戦後の暮らし 鹿児島展」
山形屋2号館6階山形屋文化ホール
(平成29年10月21日～10月31日)



巡回特別企画展「戦中・戦後の暮らし 高知展」
高知市文化プラザかるぽーと 市民ギャラリー
(平成30年1月11日～1月26日)

ご あ い さ つ



昭和館は、国民が経験した戦中・戦後（昭和10年頃から昭和30年頃まで）の生活に係る歴史的資料・情報を収集、保存、展示して、国民生活上の労苦を次世代の人々に伝える国立の施設として平成11年3月に開館し、今年19年目を迎え、小・中学生の来館者は年々増加し、総入館者数も550万人を超えました。

これもひとえに関係各位の御支援・御協力の賜物であり、心より御礼申し上げます。ここに、平成29年度の活動状況を取りまとめましたので御高覧いただければ幸いです。

主な事業として、夏の特別企画展「昭和を生き抜いた女性たち～大妻コタカと大橋鎮子らが生きた時代～」の開催をはじめ、常設展示室、映像音響室、図書室、ニュースシアター、資料公開コーナーでの事業の実施のほか、春の特別企画展「希望を追いかけて～フロリダ州立大学所蔵写真展～」、鹿児島県・高知県での巡回特別企画展、2階ひろばでの秋と春の写真展、紙芝居の定期上映会、こども霞が関見学デー、小・中学生作文コンクール、中学生・高校生ポスターコンクール、紀要「昭和のくらし研究」発刊、オーラルヒストリー（証言映像）制作、貸出キットの充実などに取り組んで参りました。

平成29年度は、様々な工夫を凝らして事業を実施した結果、特に巡回特別企画展の入場者数については、これまで32回開催した中で1位と2位となる成果をあげることができました。年度入館者数も46万2千人を超える結果となり、戦後70年の平成27年度の入館者（約52万5千人）に次ぐ2番目に多い入館者数になりました。

また、戦中・戦後の労苦を伝える語り部育成事業では平成29年10月から新たに二期生8名を迎えて、一期生（11名）とともに計19名に対する研修をそれぞれ3年計画で実施しています。

さらに、しょうけい館・平和祈念展示資料館との連携事業も6年目を迎え、夏休み3館めぐりスタンプラリーをはじめ、高知県での巡回特別企画展においては3館による同一会場、同一期間の開催を実現するなど充実を図ることができました。

終わりに、今後とも次の世代、特に若い世代に戦中・戦後の労苦を継承していくため、各種資料の収集充実に努め、様々な観点からの企画展の開催と種々な情報提供等ができるよう、魅力ある運営に励んで参りますので、一層の御支援、御鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

平成30年7月

昭和館
館長 羽毛田 信吾

フロア構成

常設展示室（入口）

7階

常設展示室（出口）

6階

映像・音響室

5階

図書室

4階

研修室・会議室

3階

広場

2階

ニュースシアター・資料公開コーナー

1階

資料収蔵室

地下1階

設備管理室

地下2階

年間主要行事

平成29年	
3月11日～5月7日	特別企画展を開催 「ポスターに描かれた昭和～高橋春人の仕事」
3月18日～4月16日	写真展を開催 「桜、誘われ」
4月29日	「昭和の日」記念イベント
5月28日～	紙芝居定期上演会（奇数月第4日曜日、 11月から第4土曜日に開催）
6月 3日～6月12日	常設展示室の資料交換（休室）
6月13日～6月15日	インターンシップ 都立工芸高等学校
6月28日	平成29年度第1回昭和館運営専門委員会を開催
7月15日～9月3日	「夏休み3館めぐりスタンプラリー」
7月22日～9月10日	特別企画展を開催 「昭和を生き抜いた女性たち ～大妻コタカと大橋鎮子らが生きた時代～」
7月26日～7月27日	教員のための博物館体験
8月2日～8月3日	こども霞が関見学デー（厚生労働省の会場）
8月15日	戦没者を追悼し平和を祈念する日
8月22日	教員のための博物館体験
8月23日～8月25日	インターンシップ 東洋高等学校
9月16日～12月17日	写真展を開催 「カラー写真が伝える復興・発展のきざしー占領下の日本ー」
10月1日	戦中・戦後の労苦を伝える語り部育成事業第2期生開校式
10月21日～10月31日	第31回巡回特別企画展を開催 「戦中・戦後のくらし 鹿児島展」
平成30年	
1月11日～1月26日	第32回巡回特別企画展を開催 「戦中・戦後のくらし 高知展」
2月3日～2月5日	常設展示室の資料交換を実施（休室）
2月7日	平成29年度第2回昭和館運営専門委員会を開催
3月1日	紀要「昭和のくらし研究」（第16号）を刊行
3月1日～3月14日	図書室の資料整理を実施（休室）
3月7日	第18回昭和館運営有識者会議を開催
3月10日～5月6日	特別企画展を開催 「希望を追いかけて～フロリダ州立大学所蔵写真展～」
3月12日～3月16日	映像・音響室の資料整理を実施（休室）
3月17日～5月6日	写真展を開催 「女学生たちの青春～戦前から戦中、そして戦後へ～」

平成 29 年度事業概要

I 展示事業

展示事業では、戦中・戦後の国民生活上の労苦を伝える実物資料等の常設展示を行うとともに、関連する資料の収集、保存、管理を行っている。

また、特別企画展や巡回特別企画展等を開催した。

(「V 特別企画展等の開催及び概要」参照)

1 常設展示

(1) 常設展示の概要

7階及び6階の常設展示室においては、多くの国民が経験した戦中・戦後の国民生活上の労苦を後世に伝えるための展示を行っている。

7階では、戦争が激しくなる少し前の昭和10年(1935)頃から、昭和20年(1945)8月15日までの戦中の暮らしを、6階では終戦から『経済白書』に「もはや戦後ではない」と記された昭和30年(1955)頃までの戦後の暮らしを、それぞれ多くの実物資料とともに写真・映像資料、図解資料等を併せて展示し紹介している。

(2) 展示替え工事

平成29年6月3日(土)から12日(月)にかけて展示替え工事を実施した。

平成28年度及び29年度の2か年で、第8回常設展示室展示替えの計画等を行い、29年度は「2 展示改修」の一部と「3 体験ひろば」の制作・設置工事を行なった。

コーナー名	内容	実施年度
1 データ追加		
(1)慰霊の旅コーナー 「慰霊の旅」システム文言修正	現行のデータベースについて、「遺骨収集帰還」の文言を「遺骨収集」に修正した。	平成 28 年度ソフト制作・設置工事
(2)第4ブース 「空襲被害地図」資料追加	各都道府県の空襲被害状況写真を追加した。	平成 28 年度ソフト制作・設置工事
(3)各ブース 情報提供	情報提供端末に「用語解説」を追加した。	平成 28 年度ソフト制作・設置工事

2 展示改修		
(1)昭和20年8月15日	「玉音放送」音源を、宮内庁より受領した最新版に変更する。玉音放送についての現代語訳パネルを掲示した。	平成28年度ソフト制作・設置工事
(2)第4ブース 「防空壕体験」	空襲の悲惨さをより現実的に体験できるよう、トリックアートを導入した。	平成29年度制作・設置工事
(3)第7ブース ジオラマによる表現	人形師にジオラマ制作を依頼し、当時の青空教室の情景を再現した。	平成29年度制作・設置工事
3 体験ひろば		
(1)昔の電話で話してみよう！	黒電話、壁掛け電話を設置し、当時の電話がダイヤル式であったことや、受話器の重みを体験してもらい、現在の電話との違いを実感してもらえようとした。	平成29年度制作・設置工事
(2)着てみよう！	「着てみよう！」コーナーにて記念撮影を行うための背景の設定(戦中・戦後の街並みなど3種類の交換を可能とした。)	平成29年度制作・設置工事

(3) 展示資料の入れ替え

長期展示による資料の劣化を避け、また、できるだけ多くの方々からの寄贈資料を紹介するため例年2回、1月と6月に展示資料の入れ替えを行っている。

平成29年度は6月3日(土)から12日(月)の展示替え工事期間と平成30年2月3日(土)から5日(月)に実施した。

2 巡回特別企画展の開催

遠方に在住する方々の便宜を考慮し、さらに幅広い広報活動の一環として、年2回の巡回特別企画展を開催している。

平成29年度は、次の通り実施した。

(1) 第31回巡回特別企画展

「戦中・戦後の暮らし 鹿児島展」

開催期間 平成29年10月21日(土)～10月31日(火)

会場 山形屋2号館6階山形屋文化ホール

主催 昭和館

特別協力 山形屋

協賛 鹿児島県遺族連合会および日本遺族会第5ブロック

後援 鹿児島県 鹿児島県教育委員会 鹿児島市
鹿児島市教育委員会 南日本新聞社 読売新聞西部本
社 朝日新聞社 毎日新聞社 産経新聞社
NHK鹿児島放送局 MBC南日本放送
KTS鹿児島テレビ KKB鹿児島放送 KYT鹿児
島読売テレビ エフエム鹿児島 鹿児島シティエフエ
ム

内容 鹿児島関連の実物資料を中心に、戦中・戦後の厳しい時代を生きぬいた人々が綴った手記や、その姿を記録した写真などを通じ、当時の世相や苦難の多かった暮らしを紹介した。

入場者数 13,682人(1,244人/1日)

(2) 第32回巡回特別企画展

「戦中・戦後の暮らし 高知展」

開催期間 平成30年1月11日(木)～1月26日(金)

会場 高知市文化プラザかるぽーと 市民ギャラリー

主催 昭和館 高知新聞社 RKC高知放送

協賛 高知県遺族会および日本遺族会第4ブロック

後援 高知県 高知県教育委員会 高知市 高知市教育委員
会 NHK高知放送局 KUTVテレビ高知
KSSさんさんテレビ 高知ケーブルテレビ
エフエム高知

内容 高知関連の実物資料を中心に、戦中・戦後の厳しい時代を生きぬいた人々が綴った手記や、その姿を記録した写真などを通じ、当時の世相や苦難の多かった暮らしを紹介した。

同時開催 「平和祈念展 in 高知」

主催：平和祈念展示資料館(総務省委託)

「しょうけい館（戦傷病者史料館）－高知展－」
 主催：しょうけい館（厚生労働省委託）

入場者数 9, 145人（1日平均653人）

巡回特別企画展



鹿児島展



高知展

3 貸出キット

全国の各市町村教育委員会や都道府県遺族会事務局のほか、「昭和館だより」の発行に併せ全国約36,000の小・中学校、高等学校にポスターとチラシを送付するなど広報に努め、更なる利用を呼びかけた。

なお、平成29年度の貸出状況は、次の通りである。

＜貸出先＞（貸出実施順）

〈学校〉24校（25件）

江戸川区立新堀小学校/北海道札幌南高等学校/板橋区立志村坂下小学校/大和市立渋谷小学校/新宿区立東戸山小学校/枚方市立長尾小学校/古河市立古賀第一小学校/静岡県三島市立南小学校/板橋区立上板橋第四小学校/小金井市立小金井第三小学校/横浜市立都筑小学校/東大和市立第十小学校/白井市立白井中学校/日野市立日野第六小学校/越谷市立千間台小学校/北区立滝野川小学校/横浜市立新田小学校/鎌倉市立山崎小学校/北区立堀船小学校/千曲市立東小学校/鷗友学園女子中学高等学校/東京女学館小学校/藤沢市立藤ヶ丘中学校/品川区立城南小学校（2回）

〈地方自治体〉 12自治体（13件）

横須賀市役所市民部市民生活課/川口市役所総務部総務課/豊橋市平和教育研究委員会/八王子市役所総務部総務課/南あわじ市役所建設部都市計画課（2回）/海老名市役所保健福祉部福祉総務課/三郷市役所総務課/台東区役所総務部/茨城県保健福祉部長寿福祉課/大和市平和都市推進事業実行委員会/越谷市役所総務部総務課/千代田区国際平和・男女平等人権課

〈一般団体〉 7団体（7件）

綾瀬市遺族会/浜松市遺族会/コープみらい東京都本部1ブロック委員会/朝日町遺族会/庄原市戦没者遺族会/株式会社ベネッセスタイルケア グランダ学芸大学/一般財団法人石川県遺族連合会

4 紙芝居定期上演会

当館が所蔵する紙芝居とワークショップの要素を取り入れた体験型の上映会を、紙芝居師により実施した。

なお、入場者の状況は以下の通りである。

上演月	入場者
平成29年 5月	129人
7月	205人
9月	132人
11月	128人
平成30年 1月	91人
3月	217人
合計	902人

5 教員のための博物館体験

学校と博物館の連携を図ることを目的に、小中高校の教職員を対象とした博物館体験の日を実施した。

開催日：平成29年7月26日（水）10：00～12：30

7月27日（木）10：00～12：30

8月22日（火）10：00～12：30

内 容：① 学芸員による展示趣旨・方法の解説

- ② 収蔵庫等のバックヤード見学
- ③ 昭和館ウェブサイト紹介
- ④ 貸出キットの紹介
- ⑤ 意見交換

参加者：7月26日	小学校教諭3名、中学校教諭2名	計	5名
7月27日	小学校教諭8名、中学校教諭2名	計	10名
8月22日	小学校教諭2名、中学校教諭2名 高等学校教諭2名		
	その他（特別支援学校、JICA）4名	計	10名

6 実物資料の収集と保存

(1) 実物資料の収集

平成29年度は、「自作のウッドベース」、「引揚げの際衣服に縫い込んだ紙幣」等1,600点の寄贈を受け、「王子区隣組回報文書」、「普門暁画幅」等355点の購入を行った。

収蔵資料数は次表の通りである。(平成30年3月末現在)

寄 贈 資 料	40,807点
購 入 資 料	13,595点
厚生労働省からの無償貸付資料	3,243点
寄 託 資 料	485点
合 計	58,130点

(2) 実物資料の保存と補修

平成29年度末までに収集した実物資料は、全て燻蒸処理を行い、整理、分類した上、地下1階の資料収蔵室で保管を行っている。

Ⅱ 図書映像資料等閲覧事業

1 図書文献関係

(1) 運用管理

① 閲覧室及び書庫の管理

4階図書室では、収集した戦中・戦後の国民生活に関する文献や戦争に関する基本図書・雑誌・地図等を閲覧に供している。

閲覧室には座席30席のほか、所蔵資料や『戦史叢書・陸海軍部隊略歴検索システム』等のデジタル情報及び『文藝春秋』等の雑誌データベースが閲覧できる端末を6台設置し、タッチパネルとキーボードの両方で使えるようにしている。また国内の類似施設情報が閲覧できる端末1台を設置し、来館者の利用に供している。

利用頻度が高い基本図書や総合的な内容をもつ図書を中心に開架図書とし、利用状況に応じて随時調整している。

開架図書は比較的利用頻度の高いものは4階書庫、その他は地下書庫に収蔵し、劣化の激しい図書は保管庫で別置保存している。

閲覧室入口付近の展示ケースでは寄贈図書の一部を随時紹介している。

② レファレンス・サービス（参考調査業務）

平成29年度のレファレンス・サービスは276件、1日平均約1件で、特に8月の夏休み期間に多かった。レファレンスの内容は書籍の所蔵確認だけではなく、考証に関するものが多かった。

レファレンスの内容は随時蓄積し、利用ガイドなどに反映させるよう努めている。

③ 利用ガイドの発行

レファレンスの内容に基づいて利用・検索の方法や、所蔵図書を紹介する「ぶらりらいぶらりい」を毎月発行し希望者に配布している。

④ 展示関連図書の公開と参考図書リストの配布、読書案内

来館者が特別企画展などの展示内容についてより一層理解が深められるよう、展示テーマに即した図書・雑誌を閲覧室内に展示し、気軽に手にして閲覧できるコーナーを設けている。

昨年度からの継続企画コーナー「あなたの出身地は？昭和館で見られる47都道府県の資料」では、2か月ごとに資料の入れ替えを行っているが、今年度は巡回特別企画展を開催した鹿児島県、高知県を含め6県の関連資料を紹介した。

継続企画以外でも、大人から子どもまでを対象に話題になっている事柄に関連する図書などを紹介した。今年度は、ニュース関連でジョー・オダネル「焼き場に立つ少年」、逝去した人物（三代目三遊亭円歌、大岡信、ペギー葉山、大田昌秀、日野原重明、早坂暁、石牟礼道子、内田康夫）等、テレビや映画関連では、NHK連続テレビ小説「ひよっこ」、映画「北の桜守」に関する資料、昭和館が紹介された書籍『すごい古書店変な図書館』『大家さんと僕』などを取り上げた。

また、特別企画展及び資料公開コーナーの展示内容など連動した図書・雑誌の公開も行っており、「大妻コタカ」「子どもの歌」「女学生」の関連資料を紹介した。

平成29年7月19日（水）から9月3日（日）まで、小学校高学年から中学生を対象に、「夏休みの宿題・研究用図書リスト」を作成して希望者に配布するとともに、ホームページにも同リストを掲載し、利用の便を図った。

また、同期間、小学生を対象にした「夏休みワークシート」も配布し、調べ学習の実践を推進した。今年度新たに作成したテーマは「昭和と女性」「めざせ！図書室マスター」で、前年度までに作成した「学校生活」「学童疎開」「空襲」「昭和20年」「隣組」「くらしの道具」「動物たちと戦争」とあわせて配布した。

平成29年9月には、平和祈念展示資料館が九段生涯学習館にて開催した「マンガで描いた抑留・引揚げのガマン」に関連して、シベリア抑留関係資料のコーナーを設けるなど、館内外との協力・連携をはかった。

⑤ ホームページ

図書室の紹介ページでは、開架図書を書架ごとに紹介するとともに、閲覧室内で紹介している資料の入れ替えごとに掲載し利用を促している。

「ぶらりらいぶらりい」を定期的に更新しているほか、「本に関するお問い合わせ」では、利用者からのレファレンス等を随時受け付けた。

資料募集のお知らせを掲載し、広く資料の寄贈を呼びかけている。

蔵書検索ページは、毎月データを更新し、館外からも検索できるようにしている。蔵書検索は、横断検索もできるほか、タイトルや著者名、フリーワードでの検索などさまざまな方面からできるようにしている。あわせて、過去のレファレンス事例もキーワードで検索して見ることができるようになっている。

⑥ 蔵書点検

平成30年3月1日(木)から3月14日(水)までの14日間、図書室を休室にし、蔵書点検を実施した。開架図書及び4階書庫の閉架図書を重点的に点検し、破損が著しい図書の修理や製本を行った。また、図書・雑誌の和書資料の増加にともない、蔵書の移動を行った。

⑦ 利用状況

平成29年度 図書室入室者及び閉架資料利用状況(月別)

年月	入室者数	閉架資料	
		利用者数	利用冊数
平成29年4月	1,348	163	656
5月	1,334	185	801
6月	1,274	186	734
7月	1,388	228	1,105
8月	2,360	222	1,112
9月	1,071	155	673
10月	981	152	550
11月	1,848	128	464
12月	3,768	126	446
平成30年1月	2,910	100	425
2月	2,266	138	764
3月	902	96	354
合計	21,450	1,879	8,084

平成29年度 閉架資料の利用冊数(分野別)

分野	図書	雑誌
総記	192	2,257
哲学	16	3
歴史	1,100	210
社会科学	1,644	443
自然科学	32	69
技術・工学・工業	259	108
産業	121	34
芸術	196	538
言語	4	3
文学	817	16
合計	4,381	3,681

- ・ 図書の利用内訳は、「社会科学」では部隊史等を含む国防・軍事関係が多く、「文学」では体験記録・手記の利用が多かった。
- ・ 雑誌の「総記」には、週刊誌及び娯楽誌など一般雑誌が含まれる。
- ・ 図書・雑誌以外では、地図 2 2 点が利用された。

(2) データ管理

① 収蔵図書のデータ管理

収蔵図書の書誌・所蔵データは随時点検、追加入力および修正作業を進めている。平成 29 年度は 2, 100 冊の書誌データの入力と装備を行った。

② 目次データ入力

図書検索システムでは、図書の書誌・所蔵データの他に目次データも入力し、目次を含めた情報を検索対象として「ことば」検索に役立たせている。平成 29 年度は 2, 100 件の目次データ入力を行った。

(3) 保存管理

資料の劣化に加え、閲覧やコピー利用による破損も増えつつあり、平成 29 年度は 8 冊の製本及び合本をし、118 冊の破損本を修理した。

なお、劣化が激しく合本できない雑誌については中性紙保存箱で保存している。

(4) 業務研修

資料収集・整理・保存管理、情報提供など図書館を取り巻く問題は、常に変化している。図書館業界や類似施設についての状況を把握し、今後の図書室の運営に反映させていくことを目的に職員業務研修に参加した。

平成 29 年度は、日本図書館協会主催の第 103 回全国図書館大会（平成 29 年 10 月 12 日（木）～13（金）日開催：於 国立オリンピック記念青少年総合センター）などに出席し、業務の向上と他館との情報交換に努めた。

2 映像・音響関係

5 階映像・音響室では、戦中・戦後の国民生活に関する映像・音響資料等について、検索端末を通して来館者へ提供している。検索端末は全部で 20 台設置されており、内訳は以下のとおりである。

多人数で同時に利用が可能な団体専用端末が 2 台、当館類似施設の各ウェブサイトを紹介する専用端末が 1 台、国立国会図書館が提供する約 5 万の歴史的音源、にいがた MALUI 連携地域データベースを利用できる専用端末が 1 台、映像・音響資料を検索する端末が 12 台となっている。

そのほか4台は、パソコン操作が得意でない来館者も利用できることを目的に、「国民生活」「トピックス・著名人の顔」「スポーツ」「世間を騒がせた出来事」のニュース映画を簡単に閲覧できる検索コーナーやSPレコードの一部を試聴できるコーナー（平成29年度は流行歌や鉄道、落語、戦後のカバー曲といったテーマで紹介した）となっている。

また、閲覧室の入口モニターでは、写真展に連動した女学生関係の映像や米国立公文書館から新しく入手した映像、また平和祈念展示資料館が九段生涯学習館において開催した特別展示にあわせてシベリア関係の映像を紹介した。

3 ニュースシアター

戦前から戦後のニュース映画と新作のオーラルヒストリーを毎週4作品ずつ選定して毎日上映する「昭和館懐かしのニュースシアター」は、平成29年度において157本のニュース作品と37作品のオーラルヒストリーを上映し、多くの来館者から好評を得ている。

平成29年4月29日（土）から5月5日（金）のゴールデンウィーク期間中には「家族みんなで楽しもう！戦中・戦後のアニメ映画と4Kでよみがえる終戦直後の日本」と題して、「のらくろ二等兵」、「アリチャン」、「魔法のペン」のアニメ映画3作品と、昭和21年の東京・広島を撮影した映像1作品を4K化して紹介する特別上映会を実施した。

また、平成29年9月21日（木）から9月27日（水）には、平和祈念展示資料館が九段生涯学習館において、特別展示「マンガで描いた抑留・引揚げのガマン」を開催したのにもない、シベリア抑留者の帰国関係のニュースが盛り込まれているニュース映画を特集して上映し連携をはかった。

4 収蔵資料

(1) 図書資料の収蔵状況

平成29年度は、前年度に引き続いて、戦中・戦後の国民生活に関する図書・雑誌をはじめ、写真集や少年少女雑誌・児童向け図書などを中心に収集した。収蔵概数は次表の通りである。（平成30年3月末現在）

国民生活関係図書	60,302冊
戦争に関する基本的図書	20,131冊
独自資料	35,980冊
その他基本図書	11,495冊
合計	127,908冊

<平成29年度の主な受入資料の内訳>

○ 国民生活関係	2, 742冊
・ 当時刊行された雑誌類や生活体験記等	
『日本女性の光 昭和16年6・7・9～12月号』	
『戦後50年 戦争・被爆を語る』	
『太平洋戦争の空襲日記』	
『総力戦体制下の満洲農業移民』等	
○ 戦争に関する基本的図書	449冊
・ 太平洋戦争関連の基本文献、部隊史、戦争関連の体験記等	
『太平洋戦争通史』	
『多摩の戦争遺跡』	
『学徒出陣とその戦後史』	
『私の八月十五日〈5〉戦後七十二年目の証言』等	
○ その他	59冊
・ 寄贈を受けた各類似施設の刊行物等	
『国立歴史民俗博物館研究報告』『東京都江戸東京博物館紀要』等	
・ 定期購読誌	
『文藝春秋』『中央公論』『新潮45』『丸』等	

(2) 映像・音響資料の収蔵状況

利用者が検索システムを利用して閲覧できる映像・音響資料の収集を進めている。平成29年度は、昨年度の海外調査において確認したフロリダ州立大学所蔵のオースティンコレクションや米国国立公文書館所蔵の占領下の日本の写真、映像、マッカーサ記念館所蔵のカルメン・ジョンソンコレクション等入手し、館内アーカイブでの提供に向けて整理作業を進めている。

<平成29年度の受入資料>

(1) 記録写真	3, 420枚	
＜主な資料＞		
米国国立公文書館所蔵		502枚
マッカーサ記念館所蔵カルメン・ジョンソンコレクション		711枚
フロリダ州立大学所蔵オースティンコレクション		750枚
学徒出陣関係の個人寄贈写真		88枚
(2) 記録映像	54本	
＜主な資料＞		
日本ニュース	26本	
(3) 音響資料	147件	
全て個人寄贈のSPレコード		

<平成29年3月末現在の提供データ件数>

	データ件数
静止画資料	24, 913件
動画資料	3, 299件
音響資料	13, 395件
計	41, 607件

Ⅲ 関連情報提供事業

関連情報提供事業では、①昭和館が所蔵する図書資料、映像・音響資料の情報、②雑誌資料等をデータベース化した情報、③昭和館類似施設（国内132カ所）の基本情報を、それぞれ来館者が端末で利用できるよう提供している。

特に図書資料については千代田区内の関連施設・大学図書館との横断検索ができるようになっている。

1 運用管理

(1) システム運用管理

来館者に総合データベース（図書雑誌目次情報、静止画（写真）、動画、音響）、個別データベース（戦史叢書・陸海軍部隊略歴、デジタル雑誌など）及び類似施設等の関連情報を提供している。来館者が様々な条件から資料を検索し、閲覧できる方法を採用している。

システム稼働は安定しており、ハードウェア及びデータ損傷等の大きなトラブルはなかった。

平成29年度の各データベースへのアクセス数をまとめたのが次表である。アクセス総数は507,933件、月平均約42,328件で、多くの来館者に利用されている。

	図書	雑誌	写真	映像	音響	個別DB	月別合計
平成29年4月	2,329	1,428	26,237	7,877	3,255	155	41,126
5月	2,741	2,453	27,673	7,264	3,973	147	44,104
6月	3,091	1,646	27,376	8,349	3,010	154	43,472
7月	4,244	2,704	24,832	7,221	3,691	102	42,692
8月	3,139	1,847	32,531	10,329	3,932	282	51,778
9月	2,988	1,730	25,865	7,090	2,672	189	40,345
10月	3,275	1,371	24,796	6,174	2,224	112	37,840
11月	2,924	2,058	28,138	8,704	2,847	297	44,671
12月	3,797	1,804	26,278	10,994	4,571	523	47,444
平成30年1月	3,963	1,610	17,782	8,759	3,196	400	35,310
2月	3,020	2,067	20,334	11,489	2,913	285	39,823
3月	2,062	1,012	26,229	6,922	3,103	58	39,328
合計	37,573	21,730	308,071	101,172	39,387	2,704	507,933

(2) データベース運用管理

来館者閲覧用及び記録資料のデジタル化を進め、以下のデータベースを稼働させている。館内で職員が常に情報追加・更新を行っている総合データベースと、公刊戦史や部隊情報、雑誌をデジタル化した個別データベースに分けることができる。

- 収蔵図書・雑誌目次情報（総合データベース）
収蔵図書や雑誌の書名・著者名・雑誌名等書誌情報のほか、目次を全てテキスト入力しており、「目次情報」からも検索ができるようになっている。
- 収蔵映像・音響資料情報（総合データベース）
収蔵している静止画（写真）、動画及び音響資料（SPレコード）を、タイトルや作曲者名等の資料情報から検索でき、目的の映像または音楽を表示し、また視聴できるようにしている。
- デジタルライブラリー（個別データベース）
昭和館で独自に開発したデータベースで、年鑑と雑誌をデジタル化し、それぞれが検索でき、各雑誌間での横断検索も可能である。今年度は『毎日新聞』『東日小学生新聞』『週刊子供マンガ新聞』『工業グラフ』『学童養護』の画像データ化を行った。
- 戦史叢書・陸海軍部隊略歴検索システム（個別データベース）
防衛庁防衛研究所戦史室編纂の『戦史叢書』、厚生省援護局編纂の「部隊略歴簿」「艦船行動調書」等をデータベース化し、横断検索を可能にして、利用の便を高めている。

(3) ホームページ運用管理

開館時から引き続き昭和館ホームページの定期更新を行っている。

平成29年度のアクセス数は次のとおりであった。

- | | |
|-------------|------------|
| ・平成29年度 | 195,308件 |
| ・平成29年度月間平均 | 16,275件 |
| ・開館時からの累計 | 2,774,631件 |

内「キッズナビ」へのアクセス数

- | | |
|------------------|----------|
| ・平成29年度 | 11,100件 |
| ・平成29年度月間平均 | 1,009件 |
| ・平成18年（導入時）からの累計 | 191,014件 |

※システムエラーにより算出ができなかった9月分は含まず。

(4) SNSの活用

広報の一環として、Twitter、Facebook、YouTubeでの情報発信を開始し、特別企画展をはじめとするイベントや図書室の資料紹介、所蔵映像等の情報を提供した。

平成30年3月末までのアクセス数等は、以下の通りである。

Twitter登録者数	フェイスブック閲覧者数	YouTube視聴回数
607	7,922	6,149

(5) Wi-Fi提供

図書室、映像・音響室等での学習や調査研究を助けるため、外国人来館者へ向けたサービス向上のために1階ロビー、3階研修室、4階図書室、5階映像・音響室で提供をしている。

2 オーラルヒストリーの制作

戦中から戦後にかけての労苦を体験された方々の証言を、永く後世に伝えるため、「オーラルヒストリー」の制作を昨年に引き続き実施した。

戦没者妻や遺児による戦没者への遺族の想いや、戦中・戦後の苦しかった生活体験などを中心に、空襲、学校生活、疎開生活等、32名の証言（36作品）の収録を行った。

作品は以下のとおりである（編集中の作品を含む）。

作品タイトル	証言者
戦中・戦後の体験と南極観測の夜明け	吉田 栄夫
昆虫(むし)から学んだ命の重み	矢島 稔
軍国少年が体験した沼津空襲	川村 秀
東西冷戦下のモスクワでの生活	川村 秀
軍人になるつもりが教員の道へ 終戦直後の小学校	羽山 桂之助
師範学校での勤労働員、空襲の体験	横山 譲二
師範学校生徒から教員に	横山 譲二
女学生から社会福祉の道へ	各務 和子
海軍工廠での生活と戦後の食糧不足	佐々木 哲子
東京から愛媛に疎開、動員先で迎えた終戦	佐伯 田鶴子
女学生から「エキスポート・バザー」に勤めて	石原 文子
加治木空襲を生き延びた中学生	今吉 孝夫
米国留学と加治木空襲資料の発見	今吉 孝夫
父が戦死、農家を継いで	白井 照造
東南海地震と戦後の食糧難	川畷 春生
死ぬなんて考えない	高橋 潤次

引揚げと戦後の生活	安間 邦子
尊敬する兄への想い	中島 滋
戦死した兄への想いと慰霊巡拝	久山 泰一
戦後の労働と酒造り	中山 勝稔
「お父さん」と呼べずに	中山 真砂子
父の戦死と平和への願い	多田 サチ
フィリピン山中での避難と引揚げ	日高 雛子
跡継ぎとして、硫黄島に父を訪ねる	山際 義和
母子で支え合った戦中・戦後	佐藤 サダ子
夫は硫黄島へ、働き続けた戦中・戦後	宮澤 トミ子
戦地から復員、戦後は農家の養子に	下條 司
亡き夫と子どもと共に	石井 和子
駆逐艦「檉」で終戦を迎え復員業務へ	金清 道保
戦中・戦後の学校生活	喜田 清
高松空襲	喜田 清
戦死した兄への思いと復員の思い出(編集中)	神野 政夫
窮屈な戦中の暮らし、家につくした青春時代(編集中)	六本木 まさゑ
戦中戦後の思い出、町遺族会長としての改革(編集中)	山田 勉
夫の戦死と生計を支えた和裁(編集中)	田部井 ナヲ
半年きりの夫婦生活、手紙にみる父の面影(編集中)	高橋 コト

IV 啓発広報等事業

1 広報活動

(1) 広報資料の作成及び発送

「昭和館館報」については、都道府県、政令指定都市、東京特別区、教育委員会、老人クラブ連合会、各省庁図書館等に対して送付している。

なお、都道府県遺族会、類似施設、大学図書館等には「昭和館館報」と「昭和のくらし研究」を併せて送付し、当館の周知を図っている。

また、昭和館と学校をつなぐ広報誌「昭和館だより」28号を平成29年6月下旬から7月上旬に1都3県の小学校（5年生）来館校、中学校（2年生）来館校、千代田区内の公立小学校（全校生徒）、東京都の校長会等で配付依頼した小学校（5年生）に発送した。更に東京都小学校社会科研究会、全国小学校社会科研究会に参加をして事業の説明を行い来館の促進を図った。

なお、全国の小・中・中等教育校に対しては平成29年11月に「昭和館だより」29号を送付し当館の実施事業の周知を図ることに努めた。

その他に、今年度巡回特別企画展の開催県について、6月に鹿児島市の小・中学校5校、10月に高知市の小学校4校及び校長会を訪問し、巡回特別企画展開催について説明を行うとともに広報に努めた。

(2) 広報と掲示及び掲載

当館の事業内容のPRのために、九段下駅4出口、東西線2番ホーム、半蔵門線3番ホームに電飾掲示板を設置して、九段下駅コンコース案内図に事業内容のPR活動を行った。

また、特別企画展開催等の際には、都営新宿線の車内に、窓上ポスターを掲示したり、千代田区コミュニティバスの車内広告や九段郵便局等にポスターを掲示する等PRに努めた。

なお、郵便局の利活用については、巡回特別企画展においても行った。

さらに、毎月発行される東京メトロ「沿線だより」、東京メトロ・東京都交通局一日乗車券特典ガイド「ちかとく」、JTBや千代田区等のガイドブック、毎月発行される千代田区報に当館の紹介記事を掲載した。

その他、東京新聞、産経新聞、日本教育新聞に広報記事を掲載した。

(3) 昭和館だよりの発行

昭和館の活動を学校等に随時伝えるため、広報誌「昭和館だより」28号、29号を、平成29年6月と平成29年11月に発行し、(1)に記載した教育関係機関に発送した。

(4) 戦中・戦後の労苦を伝える語り部育成事業

① 事業の概要

戦中・戦後の労苦を体験した者が高齢化する中、当時のことを語り継いでいくことが難しくなっていることから、国民が体験した戦中・戦後のくらしの上での様々な労苦を後世に語り継いでいく、戦後世代の伝承者である「語り部」を3年計画で育成する事業を行っている。

② 事業の実施状況

ア 平成28年度に募集した1期生（11名）については、月1回のペースで研修（各期共通）を行い、これまで21回の研修を実施した。
また、平成29年度に募集した第2期生（8名）については、これまでに10回の研修を実施した。

イ 研修予定

- * 1～2年目 : 語り部としての基礎知識研修、「家族の別れ」等テーマ別研修、話法・朗読技術の研修、体験談の聴講・体験者との交流等
- * 2～3年目 : 語り部実演・発表によるスキルアップ等

③ 研修終了後は、昭和館から委嘱をした方には昭和館の語り部として講話等の活動をしていただく予定である。

(5) こども霞が関見学デー

文部科学省主催で、平成29年8月2日（水）、3日（木）の2日間、各省庁を会場として開催された。昭和館は、厚生労働省社会・援護局の企画として「この夏、戦中・戦後のくらしを学ぼう！～当時子どもたちは、どんな生活をしていたのかな？自由研究に役立つワークシートも配布中～」のタイトルで、貸出キットを中心とした出張展示を行い、夏休みの自由研究に使用できるワークシートを作成した。

また、当時の少年少女雑誌も紹介し、掲載された「トントン紙相撲」等の工作が楽しめるコーナーの設置や写真映像資料もあわせて紹介した。

- ・開催期間 平成29年8月2日（水）～3日（木）
- ・会場 厚生労働省 仮設会議室
- ・来場者数 1,420人

2 『昭和のくらし研究』の刊行

昭和館の設立趣旨である「戦中・戦後の国民生活上の労苦を次の世代に伝える」事業の一環として、紀要『昭和のくらし研究』第16号を平成30年3月に刊行した。(平成15年度から年1回刊行)

目次は次の通りである。

『昭和館のくらし研究』第16号 目次

口 絵

軍事郵便のもつ“歴史力”に魅かれて

—その収集・保存・公開・研究について— 新井 勝紘

未帰還書状にみる出征と総攻撃直前の戦死観

—米国国立公文書館所蔵函獲資料の事例— 木龍 克己

戦地に送られた終戦直後の葉書

—ラファイエット大学スキルマン図書館所蔵資料より— . . . 折原 里枝

資料紹介 俘虜用郵便葉書のやりとりに託された想い

—石黒正雄家往復書簡— 藤川 和史



昭和のくらし研究第16号

3 展示資料の貸出

- 「鹿児島市の戦災と復興資料・写真展」
 - ・開催期間 平成30年2月15日（木）～3月15日（木）
 - ・会場 鹿児島中央駅市民プラザ
 - ・貸出資料 映像 2点

- 「第12回企画展テーマ展示「明治青年 秋山真之」」
 - ・開催期間：平成30年2月27日（火）～平成31年2月17日（日）
 - ・会場：坂の上の雲ミュージアム 4階展示室3
 - ・貸出資料：図書資料 7冊

4 昭和館運営専門委員会の開催

昭和館の事業計画の策定、事業の運営等に当たっては、開館以来「昭和館運営専門委員会」を年2回開催し、同委員会の意見を踏まえ、事業の充実推進を図っている。

昭和館運営専門委員会 委員名簿

(平成30年3月31日現在 50音順、敬称略)

委員長	宮 脇 岑 生	(元国立国会図書館副館長)
委員	赤 木 完 爾	(慶應義塾大学教授)
〃	上 野 憲 示	(文星芸術大学学長)
〃	加 納 正 弘	(元厚生省大臣官房審議官)
〃	北 原 進	(品川区立品川歴史館館長)
〃	鈴 木 淳	(東京大学大学院人文社会系研究科教授)
〃	月 岡 正 明	(世田谷区立等々力小学校長)
〃	花 輪 隆 昭	(元昭和館館長)
〃	松 井 かおる	(江戸東京博物館学芸員)

5 昭和館運営有識者会議の開催

昭和館の運営について、幅広い視野からの意見を得ながら、公正かつ中立的な運営を確保するため、平成15年4月から厚生労働省社会・援護局に「昭和館運営有識者会議」を設置し、これまでに18回にわたり委員会を開催し、昭和館運営事業の計画概要の意見交換を行っている。

昭和館運営有識者会議委員会 委員名簿

(平成30年3月31日現在 順不同・敬称略)

委員長	波多野 澄 雄	(国立公文書館アジア歴史資料センター長)
委員	國 松 善 次	(一般財団法人滋賀県遺族会相談役)
〃	増 田 弘	(立正大学法学部法学科特任教授)
〃	神 津 カンナ	(作家・エッセイスト)
〃	上安平 冽 子	(NHKグローバルメディアサービス元企画事業部長)
〃	鈴 木 淳	(東京大学大学院人文社会系研究科教授)
〃	藤 田 琢 治	(板橋区立板橋第二中学校教諭)
〃	松 井 かおる	(江戸東京博物館学芸員)

6 インターンシップ

飯田橋公共職業安定所(ハローワーク飯田橋)からの依頼により、高校生の職業意識の形成を目的とする「ジュニア・インターンシップ(就業体験)」を実施し、平成29年6月13日(火)～15日(木)まで都立工芸高等学校1名、平成29年8月23日(水)～25日(金)まで東洋高等学校3名を受入れ、職員の指導の下、当館の業務を体験させた。

7 関係施設等連携会議の開催等

関係施設等連携会議(昭和館事務局)を開催するとともに、しょうけい館、平和祈念展示資料館との3館の連携に取り組んでいる。

〔 関係機関：厚生労働省社会・援護企画課、総務省大臣官房総務課管理室
平和祈念展示資料館、しょうけい館、昭和館 〕

- (1) 第12回会議を平成29年6月16日(金)に開催
第13回会議を平成30年1月31日(水)に開催
- (2) 3館連携「夏休み3館めぐりスタンプラリー」実施
開催期間：平成29年7月15日(土)～9月3日(日)
参加者数：5, 141人
- (3) 移動教室「マンガで描いた抑留・引揚げのガマン」を開催
開催期間：平成29年9月21日(木)～9月27日(水)
主 催：平和祈念展示資料館
協 力：昭和館、しょうけい館
場 所：九段生涯学習館 2階 九段ギャラリー

(4) 巡回特別企画展の相互協力

- 鹿児島県における巡回特別企画展においては、しょうけい館及び平和祈念展示資料館のポスターを掲示するブースを設ける等、各館と連携を図った。
- 高知県における巡回特別企画展においては、高知市内の同一会場で同時開催されたしょうけい館及び平和祈念展示資料館との連携を図った。

V 特別企画展等の開催及び概要

昭和館では、多岐にわたる「戦中・戦後の国民生活上の労苦」を次の世代に伝えるため、常設展示とは違った視点や内容で、特別企画展等を開催している。

1 特別企画展

「昭和を生き抜いた女性たち

～大妻コタカと大橋鎮子らが生きた時代～

戦争は女性のくらしに大きな変化をもたらした。出征していく男性に代わり、戦時下での女性は様々な役割を求められるようになった。

終戦をむかえると、苦しい耐久生活のなか新しい制度のもとで女性の権利、進学率の向上など、戦後復興を支える女性の活躍も目立つようになる。

昭和のなかで、女性のくらしはどのような変化を遂げてきたのか。本展では、困難に耐え社会進出を果たした二人の女性、大妻コタカ・大橋鎮子の生涯をあわせてみながら、昭和を生き抜いた女性たちの姿を紹介した。



昭和館特別企画展
昭和を
生き抜いた
女性たち
～大妻コタカと大橋鎮子らが生きた時代～

平成29年
7.22(土)～9.10(日)

会場 昭和館3階 特別企画展会場
開館時間 10:00～17:30(入館は17:00まで)
休館日 毎週月曜日(8月14日除く)
主催 千代田区・千代田区教育委員会

昭和館
URL: <http://www.showaken.jp/>
https://twitter.com/showakenuden
https://www.facebook.com/showakenuden/

入場無料

開催期間：平成29年7月22日（土）～9月10日（日）

会場：昭和館3階 特別企画展会場

来場者数：13,647人（約303人／1日）

<展示構成>

I 昭和の時代のはじまり

戦前期の女性のくらし／大妻コタカ「良妻賢母」の実践／大橋鎮子 第六高等女学校時代

II 戦時下に生きる

戦時下の女性たち／大妻コタカ 「銃後の守り」と女子教育に尽力／大橋
鎮子 戦時統制下の出版社

III 戦禍をくぐり抜けて

戦後復興と女性／大妻コタカ 焼け跡からの再建／大橋鎮子 『暮らしの手
帖』に込めた女性のくらし改革

IV 新しい時代を目指して

30年以降の女性のくらし／大妻コタカ 女子教育のために／大橋鎮子
新しい女性のくらしを提案

<イベント>

1. 活動弁士による無声映画上映会

活動弁士：ハルキ

演 目：「子宝騒動」、「大学は出たけれど」、「毬の行方」

期 日：平成29年8月6日（日）

会 場：1階ニュースシアター

参加者数：147人（内数）

2. 夏休み工作体験

期 日：平成29年7月29日（土）、8月19日（土）

会 場：3階会議室

参加者数：68人（内数）

3. 展示解説

期 日：平成29年7月29日（土）、8月19日（土）

会 場：3階特別企画展会場

参加者数：103人（内数）

2 特別企画展

「希望を追いかけて～フロリダ州立大学所蔵写真展～」

オリバー・L・オースティン Jr. (Oliver L. Austin, Jr. 1903-1988) は、戦後まもない昭和21年(1946)9月から25年2月まで日本に滞在した鳥類学者で、彼が日本で撮影した写真は鳥類学者としての記録だけでなく、各地の都市や農村のくらし、そこに生きる人々の姿を写し出している。本展ではフロリダ州立大学所蔵のオースティンコレクションから厳選した70点の写真と、関連の深い実物資料をあわせて紹介した。

開催期間：平成30年3月10日（土）～5月6日（日）

会 場：昭和館3階 特別企画展会場

来場者数：41,266人（825人／1日）

<展示構成>

- I オリバー・L・オースティン Jr. の活動
オリバー・L・オースティン Jr. の経歴／鳥類学者としてのオリバー・L・オースティン Jr.

- II 人々の暮らし
戦後まもない日々／子どもの暮らし／特別な一日

- III 戦後の東京の街並み
戦後のオフィス街／住宅街と商店街



<イベント>

1. 昭和の体験イベント

紙芝居、チンドン屋など、昭和の遊び等を中心としたイベント。

期 日：平成30年3月24日（土）、25日（日）、31日（土）、
4月1日（日）5月4日（金）、5月5日（土）

会 場：2階ひろば

参加者数：3,547人（内数）

2. 展示解説

期 日：平成30年3月25日（日）・4月21日（土）

会 場：3階特別企画展会場

参加者数：96人（内数）

3 写真展

「カラー写真が伝える復興・発展のきざしー占領下の日本ー」

開催期間：平成29年9月16日(土)から12月17日(日)

会 場：昭和館2階広場

内 容：ラファイエット大学スキル
マン図書館より入手した
ジェラルド・ワーナー撮影
の写真を中心に展示した。

期間中入場者数：28,120人
(約352人/1日)



4 写真展

「女学生たちの青春～戦前から戦中、そして戦後へ～」

開催期間：平成30年3月17日（土）から5月6日（日）

会場：昭和館2階広場

展示内容：戦争に翻弄され、銃後の担い手となった女学生たちの日常生活を所蔵写真の中から紹介しました。

期間中入場者数：25,165人
（約572人/1日）
（内、平成29年度は、
10,391人）



5 資料公開コーナー

昭和館が収蔵する映像資料・写真資料（5階）・図書資料（4階）を多くの来館者に利用していただくきっかけになることを目的に、1階ロビーの一角にコーナーを設けて、資料を随時公開している。

平成29年度に紹介した資料の各テーマと期間は、以下の通りである。

実施回	タイトル	期間
第63回	母の思い、子どものあこがれ ～戦後雑誌にみる子どものファッション～	平成28年11月15日(火) ～平成29年4月2日(日)
第64回	中高校生ポスターコンクール入賞作品展示	平成29年4月4日(火) ～6月25日(日)
第65回	あの頃の都市と農村の暮らし ～アマチュアカメラマンがとらえた人びと～	平成29年6月27日(火) ～8月27日(日)
第66回	ハワイ大学ペニーノコレクション ～子どもたちのいる風景～	平成29年8月29日(火) ～平成30年1月8日(月)
第67回	詩と挿絵でたどる子どもの歌	平成30年1月10日(水) ～4月1日(日)

注：回数は平成19年度開始以来の通算回数

1 昭和館入場者状況の推移（平成11年度～29年度）

	常設展示室										総計		
	大人		高校・大学生	小・中学生	ぐるっとバス	無料	合計		映像・音響室	図書室		特別企画展	ニュースコーナー
平成11年度	84,620	2,479	3,737	-	-	-	90,836	35,236	19,398	31,142	-	176,612	
平成12年度	40,457	1,973	10,186	-	2,914	-	55,530	27,661	16,370	24,112	-	123,673	
平成13年度	36,830	2,396	19,739	-	3,610	-	62,575	38,866	20,616	33,903	65,124	221,084	
平成14年度	29,847	3,373	19,710	-	4,016	-	56,946	39,286	20,622	26,204	112,402	255,460	
平成15年度	28,802	2,725	22,713	-	5,235	-	59,475	34,328	19,072	28,953	115,594	257,422	
平成16年度	29,862	3,140	27,162	-	5,592	-	65,756	33,046	19,573	26,920	112,164	257,459	
平成17年度	30,288	2,596	29,502	-	6,265	-	68,651	35,416	19,449	35,611	124,259	283,386	
平成18年度	28,407	2,919	25,504	-	6,363	-	63,193	29,225	18,465	35,848	125,484	272,215	
平成19年度	26,845	3,611	27,519	-	7,605	-	65,580	32,683	17,617	66,280	133,564	315,724	
平成20年度	23,469	3,245	31,847	-	6,082	-	64,643	32,101	17,270	45,719	119,418	279,151	
平成21年度	20,997	2,412	28,736	2,540	6,059	-	60,744	29,787	19,898	40,627	115,523	266,579	
平成22年度	21,076	2,605	28,051	2,102	5,194	-	59,028	28,388	19,011	53,423	105,242	265,092	
平成23年度	18,400	3,347	24,067	1,815	4,868	-	52,497	28,410	19,130	55,293	88,989	244,319	
平成24年度	19,340	2,644	24,419	1,662	5,206	-	53,271	33,092	20,984	83,568	99,329	290,244	
平成25年度	20,952	3,173	24,932	1,636	6,284	-	56,977	32,653	22,013	68,427	126,225	306,295	
平成26年度	20,367	3,225	33,335	1,884	8,524	-	67,335	37,692	22,523	104,753	138,008	370,311	
平成27年度	28,362	3,689	34,660	2,559	7,667	-	76,937	37,252	20,499	163,928	226,440	525,056	
平成28年度	21,932	3,264	33,706	1,913	4,461	-	65,276	31,007	18,781	95,210	143,326	353,600	
平成29年度	23,737	3,152	44,970	1,795	5,091	-	78,745	38,110	21,449	149,538	174,407	462,249	
合計	554,590	55,968	494,495	17,906	101,036	-	1,223,995	634,239	372,740	1,169,459	2,125,498	5,525,931	

2 平成29年度利用者実績

(単位：人)

	常設 展示室	映像・ 音響室	図書室	ニュース シアター	特別 企画展等	合計	特別企画展等内訳
平成29年 4月	4,033	2,774	1,348	27,745	46,187	82,087	4/1 (3/11~5/7) 特別企画展期間 4/1 (3/18~4/16) 写真展期間
5月	4,273	2,172	1,334	8,351	3,732	19,862	5/28 ~5/7 特別企画展期間 紙芝居定期上演会
6月	2,843	2,185	1,274	6,332	0	12,634	
7月	3,944	1,896	1,388	7,949	2,407	17,584	7/15~ 7/22~ 7/23 3館スタンプラリー 特別企画展期間 紙芝居定期上演会
8月	7,923	3,453	2,360	13,916	10,780	38,432	3館スタンプラリー 特別企画展期間
9月	3,316	1,558	1,071	9,830	6,709	22,484	9/16~ 9/24 ~9/3 ~9/10 3館スタンプラリー 特別企画展期間 写真展期間 紙芝居定期上演会
10月	3,985	1,875	980	10,629	20,193	37,662	10/21~ 10/31 写真展期間 鹿児島県巡回特別企画展期間
11月	9,196	4,121	1,848	18,524	9,677	43,366	11/25 写真展期間 紙芝居定期上演会
12月	14,908	7,520	3,768	23,385	7,808	57,389	~12/17 写真展期間
平成30年 1月	9,921	4,382	2,910	12,152	9,236	38,601	1/11~1/26 1/27 高知県巡回特別企画展期間 紙芝居定期上演会
2月	9,810	4,194	2,266	12,471	241	28,982	
3月	4,593	1,980	902	23,123	32,568	63,166	3/10~5/6 3/17~5/6 3/24 特別企画展期間 写真展期間 紙芝居定期上演会
合計	78,745	38,110	21,449	174,407	149,538	462,249	

3 常設展示室入場者数

総数	区分	種別	人数	割合 (%)
78,745人	有料 28,684人	高・大学生	3,152人	4.0
		一般	25,532人	32.4
	無料 50,061人	小・中学生	44,970人	57.1
		視察者等	3,168人	4.0
		心身障害者	1,489人	1.9
		未就学児	434人	0.6

(参考) 団体による来館学校数

総数	区分	学校数	割合 (%)
816校	小学校	528校	64.7
	中学校	219校	26.8
	高校	24校	2.9
	専門学校	9校	1.1
	大学	36校	4.4

4 来館団体御芳名

(敬称略)

月日	団体名	人数
4月14日	高松市立国分寺中学校3年生	150名
5月24日	平塚市立金目中学校2年生	136名
5月26日	横浜市立錦台中学校2年生	198名
6月1日	横浜市もえぎ野中学校2年生	173名
6月16日	渋川市立渋川北中学校2年生	108名
6月28日	川崎市立宮前平中学校2年生	152名
7月6日	船橋市立宮本小学校6年生	174名
8月15日	京都府全国戦没者追悼式参列遺族団	157名
9月13日	宮田村立宮田小学校6年生	112名
9月20日	名張市立桔梗が丘中学校6年生	119名
10月5日	富山官立富丘小学校6年生	121名
10月25日	品川区立第三日野小学校6年生	100名
11月2日	府中市立府中第一中学校1年生	111名
11月7日	世田谷区立桜丘中学校2年生	133名
11月9日	町田市立相原小学校6年生	103名
"	長泉町立長泉小学校6年生	177名
"	小金井市立緑小学校6年生	103名
11月10日	三鷹市立井口小学校6年生	129名
11月14日	川崎市立日吉小学校6年生	158名
11月16日	相模原市立相模原丘中学校2年生	175名
11月22日	熊谷市立熊谷西小学校6年生	107名
11月24日	鎌ヶ谷市立西部小学校6年生	115名
"	成田市立吾妻小学校6年生	113名
"	江戸川区立南葛西小学校6年生	129名
11月28日	西東京市立谷戸第二小学校6年生	103名
"	小山市立羽川小学校6年生	116名
11月29日	品川区立第二延山小学校6年生	108名
11月30日	桐蔭学園小学部6年生	153名
12月1日	船橋市立葛飾小学校6年生	259名
12月5日	船橋市立八栄小学校6年生	165名
"	伊奈町立小室小学校6年生	131名
"	世田谷区千歳台小学校6年生	105名
12月7日	足立区立東淵江小学校6年生	116名
"	調布市立第三小学校6年生	100名
"	相模原市立横山小学校6年生	106名
"	立川市立上砂川小学校6年生	116名
12月8日	静岡市立竜南小学校6年生	121名
"	杉並区立桃井第五小学校6年生	106名
"	千葉市立稲丘小学校6年生	114名
"	江戸川区立第三松江小学校6年生	105名
"	板橋区立金沢小学校6年生	102名
12月12日	大田区立中萩中小小学校6年生	102名
"	草加市立瀬崎小学校6年生	100名
12月13日	千葉市立海浜打瀬小学校6年生	115名
12月14日	江戸川区立西一之江小学校6年生	107名
"	板橋区立成増小学校6年生	116名
"	八王子市立鎌水小学校6年生	127名
12月15日	中央区立佃中学校2年生	117名
"	横浜市立日吉台中学校2年生	205名
"	船橋市立塚田小学校6年生	161名
"	町田市立鶴川第一小学校6年生	134名
"	千葉大学教育学部附属小学校6年生	116名

月日	団体名	人数
12月15日	八潮市立大瀬小学校6年生	130名
12月19日	所沢市立泉小学校6年生	106名
"	荒川区立汐入東小学校6年生	136名
"	三鷹市立北野小学校6年生	112名
"	船橋市立習志野台第二小学校6年生	171名
"	武蔵野市立大野田小学校6年生	101名
12月20日	江戸川区立清新第一小学校6年生	140名
12月21日	葛飾区立道上小学校6年生	130名
"	練馬区立中村小学校6年生	118名
"	大田区立池雪小学校6年生	143名
12月22日	足立区立綾瀬小学校6年生	138名
"	佐野市立城北小学校6年生	154名
"	目黒区立東山小学校6年生	143名
1月11日	川崎市立新城小学校6年生	118名
"	川崎市立宮内小学校6年生	139名
1月12日	杉並区立浜田山小学校6年生	128名
"	大田区立大森第四小学校6年生	101名
"	ふじみ野市立福岡小学校6年生	101名
1月16日	綾瀬市立綾西小学校6年生	164名
1月17日	八潮市立大原小学校6年生	100名
1月18日	市川市立信篤小学校6年生	118名
"	八王子市立第十小学校6年生	112名
1月19日	府中市立南白糸台小学校6年生	116名
1月24日	葛飾区立中青戸小学校6年生	100名
"	下妻市立下妻小学校6年生	112名
1月25日	あきる野市草花小学校6年生	125名
"	足立区立千寿常東小学校6年生	103名
"	葛飾区立水元小学校6年生	113名
"	町田市立小山小学校6年生	155名
1月26日	練馬区立上石神井南中学校1年生	116名
"	江戸川区立第二葛西小学校6年生	147名
"	江戸川区立南葛西第二小学校6年生	122名
1月30日	武蔵村山市立第七小学校6年生	106名
1月31日	四街道市立四街道小学校6年生	133名
2月1日	白百合学園小学校3年生	114名
2月2日	成田市立成田小学校6年生	110名
2月8日	東京学芸大学附属大泉小学校6年生	108名
"	茅ヶ崎市立西浜小学校6年生	105名
"	桶川市立桶川東小学校6年生	127名
2月9日	早稲田実業学校初等部6年生	105名
"	さいたま市立大砂土東小学校6年生	174名
"	市川市立大柏小学校6年生	116名
2月15日	府中市立住吉小学校6年生	106名
2月16日	横浜市立川上北小学校6年生	153名
2月20日	世田谷区立深沢小学校6年生	105名
2月22日	江東区立枝川小学校6年生	124名
"	御殿場市立神山小学校6年生	106名
2月23日	横浜市立都築小学校6年生	110名
2月27日	横浜市立笠間小学校6年生	126名
2月28日	豊島区立目白小学校6年生	100名
3月2日	川口市立新郷小学校6年生	132名
3月9日	松戸市立梨香台小学校6年生	144名
3月14日	暁星小学校3年生	121名

※紙面の都合により、100名以上で来館した団体のみを掲載しております。

5 第16回昭和館作文コンクール・厚生労働大臣賞受賞作品

昭和館に行き、感じたこと

船橋市立行田西小学校 6年 平山 玲

多くの人々の命が失われた戦争。昭和館に行き、戦争によるたくさんの被害を受けたことを学べた。

日本は日清戦争から太平洋戦争まで、たくさんの国と戦争してきた。最後の戦争、太平洋戦争では、東京・大阪などの大都市を中心に空襲などの被害がひどく、日本は防空壕を地下に作った。昭和館では実際に中に入って体験することができた。とてもうす暗く、飛行機の音などが聞こえて、戦争のこわさが伝わってきた。他にも、兵士へ子ども達が送った手紙・千人針の実物を見て、戦争中の人々は助け合い、そして勝とうというその気持ちで毎日を過ごしていたんだということが伝わってきて自分たちがこうして過ごしていることは本当にすごいことなんだと思った。

こうした中で、人々の生活は厳しく制限されていった。ただでさえ苦しい生活がさらに苦しくなっていく。配給制、食料の自給、金属の回収……。全ては戦争に勝つために、国家総動員法が制定された。子どもたちは学童疎開で地方などに親と別れて行く。もし自分だったら……。と考えさせられた。親と別れてしまう悲しみ、こわさなどの気持ちで疎開先に行ったんだと思う。また戦争によって、親や兄弟、姉妹をなくしてしまった戦災孤児。どうにかして生きようとしていた姿を写真や映像で見ることができた。

このように、戦後も苦しい思いをしながら生き延びた人たち。“生きる”ことがどれほどすばらしくて、ほこらしいことなのか。そんなことが、昭和館の資料・写真・映像などから伝わった。改めて自分達が送っている何気ない生活はすごいことだと思う。戦争中、戦争後の人々が見た今の私たちの生活は夢のような光景なのではないだろうか。昭和館で見た、軍の学校の入学の呼びかけポスター。

あんな風に、今では考えられないような事が昔は当たり前のようになっている。今、日本の平和が守られているのは戦争の苦しみがあってこそだと思う。

このような事を昭和館で学べて本当に良かったし、よい経験になれた。

6 第10回昭和館中学生・高校生ポスターコンクール入賞作品の紹介 <入賞作品（優秀賞以上）>



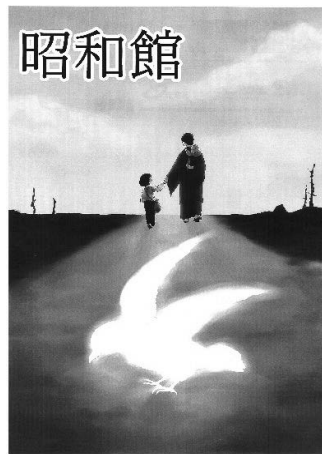
最優秀賞
富山第一高等学校
福田 貴野
昭和のあたたかい家族



優秀賞
茨城県立土浦工業高等学校
戸谷 楓夢
昭和の街



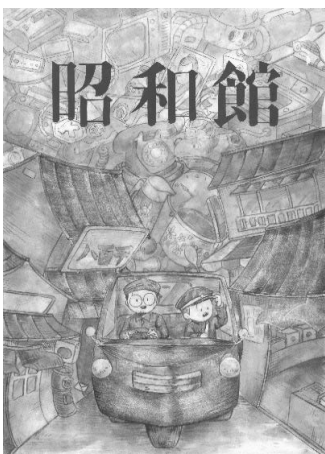
優秀賞
富山第一高等学校
寺岡 のぞみ
子どもと昭和の遊び



優秀賞
浦和麗明高等学校
上戸 杏
訪れる平和



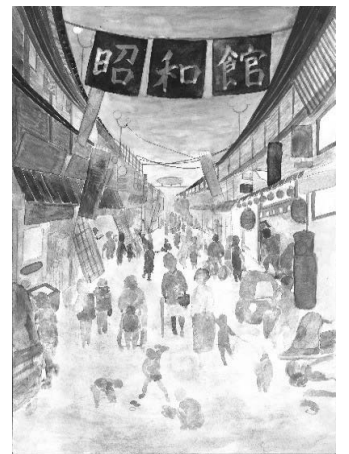
優秀賞
富山第一高等学校
成伯 実優
疎 開



優秀賞
富山第一高等学校
飯野 美涼
昭和の物



優秀賞
浦和麗明高等学校
佐々木 穂香
昭和の風景



優秀賞
富山第一高等学校
寺崎 彩花
昭和の街並み

7 施設概要

設立趣旨

昭和館は、戦没者遺族に対する援護施策の一環として、戦没者遺族をはじめとする国民が経験した戦中・戦後の国民生活上の労苦に係る歴史的資料・情報を収集、保存、展示し、後世代の人々にその労苦を知る機会を提供することを目的として設立された。

具体的には、当時の国民生活の姿を伝える実物資料の展示事業、図書・文献及び映像・音響資料の閲覧事業並びに内外の資料館の概要等に関する関連情報提供事業等の諸事業を進めることにより、戦中・戦後の国民生活上の労苦を様々な視点から総合的に伝えていくこととしている。

昭和館建設の経緯

昭和54年に、財団法人日本遺族会から、戦没者遺児への慰藉のため、「戦没者遺児記念館(仮称)」を建設して欲しいという要望が、当時の橋本厚生大臣に提出された。

これを契機として、戦後に生まれた世代が国民の過半数を占め、今日の繁栄の礎となった戦没者の遺族をはじめとする国民が経験した戦中・戦後の国民生活上の労苦を後世代に伝えることを目的に、戦没者遺族に対する援護施策の一環として、各界有識者の参加のもとに、「戦没者遺児記念館(仮称)」建設の検討が進められた。

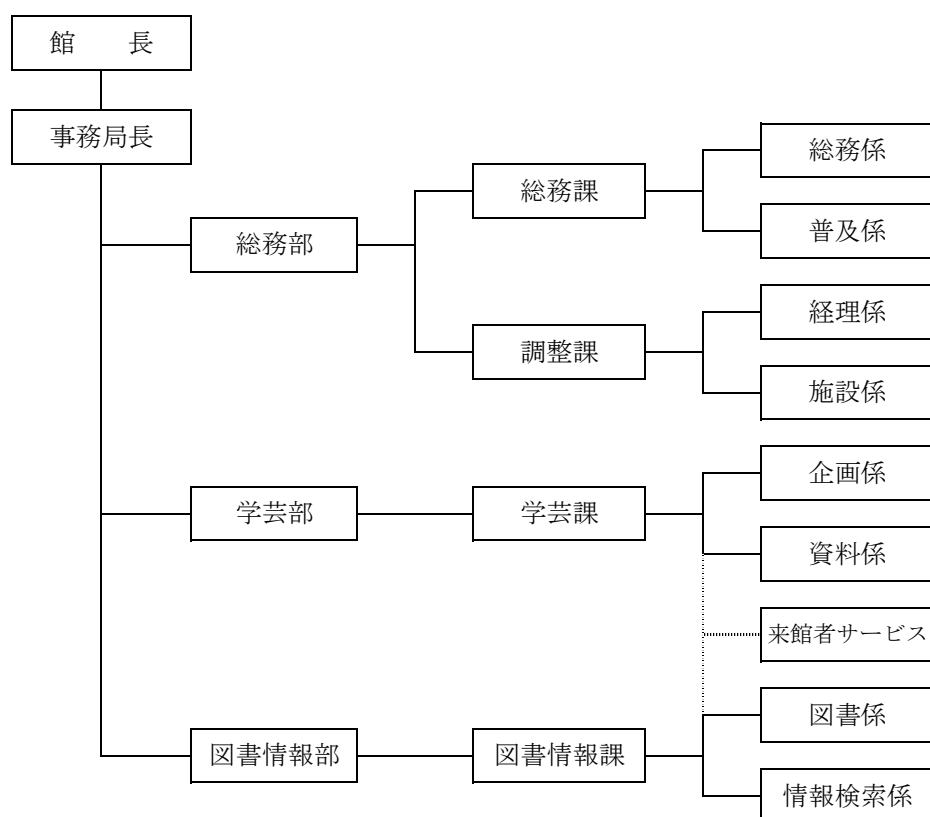
平成5年に、「戦没者追悼平和祈念館(仮称)」として厚生省(当時)予算に建設費が計上された。その後、有識者等からさまざまなご意見をいただき、平成10年12月末に竣工した。館の名称は、「昭和館」とされ、平成11年3月末に開館した。

なお、一般財団法人日本遺族会が厚生労働省から委託を受け、館の運営に当たっている。

施 設

面 積	敷地面積	2,138㎡			
	延床面積	8,514.11㎡			
構造種別	S造（鉄骨造）一部SRC造（鉄骨鉄筋コンクリート造）				
階数	床面積（㎡）	主な用途	収容人員（人）	避難施設	備 考
R階	206.04	機械室		避難階段	
7階	792.05	常設展示室（入口）	135	避難階段	戦中の国民生活
6階	795.37	常設展示室（出口）	142	避難階段	戦後の国民生活
5階	797.61	映像・音響室	63	避難階段	情報検索
4階	798.03	図書室 書庫	52	避難階段	図書閲覧 図書収蔵庫
3階	799.6	研修室・会議室	120	避難階段	特別企画展時は会場に使用
2階	718.61	広場		避難階	（臨時出入口）
1階	1288.42	資料公開コーナー エントランスロビー ニュースシアター 受付・総合案内・事務室	69 34	避難階	昭和館出入口
B1階	1011.42	資料収蔵庫 防災センター 機械式駐車場		避難階段	実物・図書資料収蔵（低温管理）
B2階	1306.96	機械室 機械式駐車場		避難階段	
合計	8514.11		615		

組 織



8 平成29年度寄贈者御芳名

本年度に、資料をご寄贈くださいました方のお名前を記して御礼といたします。

実物資料寄贈者

[団体]

都道府県	寄贈者名
東京都	株式会社潮書房光人社
〃	西町自治会

都道府県	寄贈者名
神奈川県	大和花の画房 高見清三郎

実物資料寄贈者

[個人]

都道府県	寄贈者名
東京都	浅野晴子
〃	穴田喜美子
〃	飯田里佐
〃	石川令子
〃	石橋博
〃	石原直子
〃	井上葉子
〃	今井啓雄
〃	大賀裕子
〃	大久保政彦
〃	大瀧敏子
〃	大本真理子
〃	岡田安代
〃	加藤令子
〃	川原マサ子
〃	川村秀
〃	木村隆治
〃	小泉皖司
〃	駒崎進作
〃	小山忠男
〃	櫻井武志
〃	櫻井宏
〃	末吉典子
〃	鈴木喜美江
〃	鈴木宏子
〃	鈴木雅子
〃	諏訪芳子
〃	高橋正
〃	高橋豊子
〃	谷口昌隆
〃	田畑裕子

都道府県	寄贈者名
東京都	塚越昭治
〃	塚本眞
〃	手塚孝二
〃	南條和世
〃	西山一美
〃	新田剛
〃	羽山桂之助
〃	平本温彦
〃	三木公平
〃	水谷紀子
〃	水村淳子
〃	宮澤典夫
〃	茂木兼之助
〃	横山讓二
〃	吉野幸裕
神奈川県	飯嶋利一
〃	出雲達之助
〃	大原静子
〃	草刈武義
〃	竹内真由美
〃	角井桂子
〃	野口恵子
〃	野口英行
〃	依田幹雄
千葉県	石田みのり
〃	神前康次
〃	駒井久子
〃	小柳ユミ子
〃	榊原妙子
〃	関口くみ
〃	中村富美子

(都道府県別、順不同、敬称略)

都道府県	寄贈者名
千葉県	東村弓子
〃	廣瀬規子
埼玉県	今吉孝夫
〃	片山芳二
〃	金津昌明
〃	滝吉奈緒美
〃	長野武俊
〃	古田守
〃	本多和子
〃	八木真理子
栃木県	金子敬三
山梨県	石原タツミ
愛知県	小林光昭
〃	森本宏
京都府	芦田孝一郎
〃	中村優子
大阪府	平田葉子
兵庫県	村上しま子
岡山県	平松謙一
広島県	西川宗範
山口県	小林清
香川県	石井和子
高知県	清岡司子
〃	坂本功
鹿児島県	有馬紀久子
〃	上野慶子
〃	流合千鶴子
〃	浜崎和則
〃	蛭牟田和正

図書資料寄贈者

[団体]

(都道府県別、順不同、敬称略)

都道府県	寄贈者名
北海道	公益財団法人 アイヌ文化振興・研究推進機構
〃	釧路市遺族会
〃	釧路市立博物館
〃	ピースネット・メムオロ
〃	北海道博物館
青森県	青森県近代文学館
〃	青森県立郷土館
宮城県	仙台市歴史民俗資料館
〃	東北歴史博物館
秋田県	秋田県立博物館
山形県	米沢市上杉博物館
福島県	ふくしま震災遺産保全プロジェクト実行委員会
〃	福島県立博物館
茨城県	茨城県立歴史館
栃木県	大田原市なす風土記の丘湯津上資料館
群馬県	群馬県中国残留帰国者協会
〃	一般財団法人 群馬県遺族の会
埼玉県	川越市立博物館
〃	埼玉県平和資料館
〃	日本大学広報部大学史編纂課
〃	武蔵野の空襲と戦争遺跡を記録する会
千葉県	鎌ヶ谷市郷土資料館
〃	国立歴史民俗博物館
〃	城西国際大学水田美術館
〃	市立市川歴史博物館
〃	野田市郷土博物館
〃	松戸市教育委員会
〃	四街道市教育委員会 社会教育課 市史編さんグループ
〃	歴史認識問題研究会
東京都	JCIIフォトサロン
〃	昭島市教育委員会 生涯学習部社会教育課
〃	板橋区教育委員会生涯学習課文化財係
〃	板橋区立郷土資料館
〃	一般財団法人 古賀政男音楽文化振興財団 古賀政男音楽博物館
〃	一般社団法人 日本郷友連盟
〃	印刷博物館
〃	大田区立郷土博物館
〃	葛飾昔ばなし研究会
〃	株式会社今人舎
〃	株式会社クマヒラ
〃	北区教育委員会生涯学習推進課
〃	宮内庁書陵部
〃	慶應義塾福澤研究センター
〃	公益財団法人 吉田秀雄記念事業財団
〃	公益財団法人 海原会
〃	公益財団法人 偕行社
〃	公益財団法人 多摩市文化振興財団 パルテノン多摩
〃	公益財団法人 東京都歴史文化財団 東京都江戸東京博物館
〃	公益財団法人 日本テニス協会 テニスミュージアム委員会
〃	公益財団法人 水交会
〃	品川区立立会小学校
〃	昭和女子大学光葉博物館
〃	杉並区区民生活部管理課

都道府県	寄贈者名
東京都	杉並区立郷土博物館
〃	すみだ郷土文化資料館
〃	世田谷区立郷土資料館
〃	学童疎開資料センター
〃	全国疎開学童連絡協議会
〃	立川市教育委員会生涯学習推進センター柴崎学習館
〃	たばこと塩の博物館
〃	玉川大学教育博物館
〃	中央史学会
〃	千代田区地域振興部
〃	通信文化協会
〃	東京家政学院生活文化博物館
〃	東京都公文書館
〃	東京都写真美術館
〃	道具学会事務局
〃	日本カメラ博物館
〃	八王子市市史編さん室
〃	羽田特別出張所
〃	文京ふるさと歴史館
〃	防衛省防衛研究所戦史研究センター史料室
〃	法政大学史センター
〃	満鉄会
〃	武蔵野女子学院同窓会 くない会
〃	明治大学史資料センター
神奈川県	JICA海外移住資料館
〃	綾瀬市役所 市民課
〃	大磯町郷土資料館
〃	小田原市郷土文化館
〃	小田原城天守閣
〃	小田原市立図書館
〃	神奈川近代文学館
〃	神奈川大学非文字資料研究センター
〃	公益財団法人 馬事文化財団 馬の博物館
〃	戦時下の小田原地方を記録する会
〃	専修大学教育学会社会科学研究会
〃	平塚市博物館
〃	明治大学平和教育登戸研究所資料館
〃	大和市役所 文化スポーツ部 国際・男女共同参画課
〃	横浜市史資料室
〃	横浜都市発展記念館
〃	横浜みなと博物館
富山県	富山市民俗民芸村
石川県	石川県立美術館
〃	石川県立歴史博物館
〃	小松市史編纂室
福井県	福井県立歴史博物館
〃	福井県立若狭歴史博物館
長野県	松本市立博物館分館 重要文化財旧開智学校
静岡県	島田市博物館
〃	浜松市博物館
愛知県	安城市歴史博物館
〃	蒲郡市立図書館
〃	瀬戸蔵ミュージアム

都道府県	寄贈者名
愛知県	平和のための博物館・市民ネットワーク事務局
三重県	四日市市立博物館
滋賀県	滋賀県平和祈念館
京都府	真正極楽寺 真如堂
〃	立命館大学国際平和ミュージアム
大阪府	大阪歴史博物館
〃	公益財団法人 阪急文化財団池田文庫
〃	寝屋川市人・ふれあい部人権文化課
兵庫県	明石市立文化博物館
〃	赤穂市立歴史博物館
〃	神戸女学院大学由起しげ子研究会
和歌山県	和歌山県立紀伊風土記の丘
〃	和歌山市立博物館
島根県	松江城歴史的価値発信事業実行委員会
〃	松江歴史館
岡山県	津山市総務部人権啓発課
広島県	呉市海事歴史科学館
山口県	下関市立考古博物館

都道府県	寄贈者名
山口県	周南市美術博物館
〃	戦争体験語り部会
香川県	土庄町福祉課
愛媛県	愛媛県歴史文化博物館
〃	内子町役場保険福祉課
高知県	高知県立高知城歴史博物館
福岡県	北九州市立自然史・歴史博物館 いのちのたび博物館
〃	福岡共同公文書館
〃	福岡市総合図書館文学・文書課
〃	福岡市美術館
佐賀県	佐賀県立佐賀城本丸歴史館
長崎県	諫早市政策振興部企画政策課
大分県	大分市歴史資料館
鹿児島県	一般財団法人 鹿児島県遺族会
〃	鹿児島県歴史資料センター 黎明館
沖縄県	沖縄県文化振興会 公文書管理課
〃	沖縄県平和祈念資料館
〃	ひめゆり平和祈念資料館

図書資料寄贈者

[個人]

都道府県	寄贈者名
北海道	出光英哉
宮城県	金子洋子
茨城県	斎藤嘉美
群馬県	神野政夫
〃	登丸誠
〃	松崎茂
埼玉県	石川周子
〃	今吉孝夫
〃	末吉典子
〃	長野武俊
〃	平塚滋
〃	古田守
千葉県	柴敏子
〃	中村富美子
〃	中山友美
〃	東村弓子
東京都	石原直子
〃	井上葉子
〃	榎本千賀
〃	大竹昭夫
〃	加藤弘志
〃	木村孝
〃	木村弘
〃	小泉皖司
〃	櫻井宏
〃	鈴木実

都道府県	寄贈者名
東京都	諏訪芳子
〃	高橋豊子
〃	塚越昭治
〃	中村洋太朗
〃	西川夏代
〃	西山一美
〃	根本春野
〃	林照
〃	林道夫
〃	古橋研一
〃	星野光世
〃	松井光子
〃	松本和子
〃	水野和子
〃	矢島稔
〃	安岡由佳梨
〃	弓真理子
〃	横山讓二
神奈川県	青山由幾乃
〃	出雲達之助
〃	貝瀬幸男
〃	草刈武義
〃	中條和子
〃	角井桂子
〃	野口英行
長野県	竹村淳

(都道府県別、順不同、敬称略)

都道府県	寄贈者名
岐阜県	白井次郎
愛知県	小林光昭
〃	森本宏
〃	横山憲子
京都府	石川晃
〃	井上祐子
〃	得光正博
大阪府	竹立威三雄
〃	平田葉子
兵庫県	今里淑郎
〃	中島俊郎
〃	村上しま子
〃	山崎たみ子
岡山県	平松謙一
広島県	千田武志
香川県	久保道代
〃	森田民代
高知県	清岡司子
福岡県	市原猛志
大分県	多田サチ
〃	日高臈子
〃	平田崇英
鹿児島県	有馬紀久子
〃	竹井勝志
〃	平田静也
〃	松下知子

映像・音響資料寄贈者

[個人]

都道府県	寄贈者名
埼玉県	今吉孝夫
〃	末吉典子
〃	吉田栄夫
東京都	飯田里佐
〃	石原文子
〃	井上葉子
〃	上杉康彦
〃	大本眞理子
〃	鹿島敏男
〃	川村秀
〃	小泉皖司
〃	小関由紀子
〃	小林武夫

都道府県	寄贈者名
東京都	櫻井宏
〃	諏訪芳子
〃	塚越昭治
〃	塚本眞
〃	西山一美
〃	堀井敬一
〃	横山讓二
〃	石原文子
〃	吉野幸裕
神奈川県	中條和子
〃	藤田久子
〃	渡部洋子
千葉県	駒井久子

(都道府県別、順不同、敬称略)

都道府県	寄贈者名
千葉県	中山友美
〃	東村弓子
〃	中村富美子
〃	廣瀬規子
愛知県	小林光昭
高知県	清岡司子
アメリカ	中田義直
イタリア	ダーチャー・マライーニ
神奈川県	石井光政
東京都	井上葉子
〃	林道夫
〃	西山一美
〃	大沼友美恵
茨城県	神崎淳子

昭和館館報 第19号 (平成29年度)

平成30年7月発行

編集発行 昭和館

〒102-0074 東京都千代田区九段南1-6-1

電話03 (3222) 2577